

松本市社会教育委員活動報告集

- 1 コロナ禍における社会教育、持続可能（サステナブル）な学びについて
- 2 「学都松本」らしさ（普遍的なもの・不易なるもの）



松本県ヶ丘高等学校「課題探究発表会」

令和3年9月30日

松本市社会教育委員会議



まつもと市民生きいき活動

●わたしは ころをみがき、からだを使おう
●あなたに あいさつをしよう
●このまちを きれいにしよう

一人ひとりが あたりまえのことをこつこつと続けて かけがえのないのち 生きいきとかがやくように…

松本市社会教育委員名簿

(任期 令和元年10月1日～令和3年9月30日)

区分	氏名		性別	選出団体等及び役職	備考
学校教育関係者	前任	おおた たけし 太田 武志	男	松本市校長会 (市立筑摩小学校)	R元.10.1 ～ R2.3.31
	後任	くまがい けんいち 熊谷 賢一	男	松本市校長会 (市立筑摩小学校)	R2.4.1 ～ R3.9.30
	前任	きたむら けいいち 北村 桂一	男	中信地区高等学校校長会 (松本蟻ヶ崎高等学校)	R元.10.1 ～ R2.3.31
	後任	すぎむら しゅういち 杉村 修一	男	中信地区高等学校校長会 (松本県ヶ丘高等学校)	R2.4.1 ～ R3.9.30
社会教育関係者	副	しろき よしお 白木 好雄	男	元町内公民館長会会長	
		そふえ りつこ 祖父江 律子	女	前第二地区福祉ひろばコー ディネーター	
	副	ふるいち しょうたろう 古市 昭太郎	男	前北部公民館長	
	長	はら かつみ 原 勝美	男	今井地区文化財調査委員長	
		かじわら まさひこ 梶原 政彦	男	松本市青少年補導委員協議 会副会長	
		さくらい みきこ 櫻井 みき子	女	松本市女性団体連絡協議会 幹事	
家庭教育関係者		こいらい しげと 小岩井 成人	男	前松本市子ども会育成連合 会副会長	
		ないとう けん 内藤 謙	男	元松本市PTA連合会会長	
学識経験者		まるやま ふみお 丸山 文男	男	松本大学人間健康学部スポ ーツ健康学科准教授	
公募委員		スミス まゆみ 真弓	女	公募	R元.10.1 ～ R3.3.31
		こばやし じゅんこ 小林 順子	女	公募	
		おくはら ただたか 奥原 忠孝	男	公募	
		すのはら けいこ 春原 啓子	女	公募	

目 次

～ はじめに ～	・・・	1
松本市社会教育委員会議の活動経過（R元．10～R3．9）	・・・	2
松本市社会教育委員活動報告集の2つのテーマの選定経過	・・・	3
【活動報告】		
1 コロナ禍における社会教育、持続可能（サステナブル）な 学びについて	・・・	4
2 「学都松本」らしさ（普遍的なもの・不易なるもの）	・・・	12
【現地研修】		
松本県ヶ丘高等学校「課題探究発表会」現地研修の概要	・・・	20
松本県ヶ丘高等学校「課題探究発表会」（R2.12.5）研修レポート	・・・	26
松本県ヶ丘高等学校「課題探究発表会」（R3.1.30）研修レポート	・・・	31
～ おわりに ～	・・・	33

～ はじめに ～

「コロナ禍、社会教育委員は何を考え、何を目指したか」

早いもので、松本市の社会教育委員を引き受けて6年が過ぎ、3期が終了します。この6年間、私がそれ以前に歩んできた道と大分違った経験や勉強をさせて頂きました。松本市の他、中信地区・県・関東甲信越静等の会議や研究集会に参加し、他地域の皆さんとの交流・意見交換等大変貴重な勉強をさせて頂きました。他地区へ出掛け、他地域の皆さんとの情報交換等をし、故郷松本を改めて見直す事が出来ました。御一緒させて頂いた仲間の方々も同一に「松本はがんばっているなあ」「自分達の現在の活動に自信が持てた」などの感想を頂きました。お話を伺った他地区の多くの皆さんが「社会教育委員」とは何か、何を成すべきか思い悩んでいました。それに比べて松本の仲間は、目的を持って目標に向かって邁進しています。

しかしこの6年間、活動が十分に出来たのは4年間で、最後の2年間である今期は様相が大分違ってきました。コロナ禍です。今期はコロナに始まりコロナの中での模索が続きました。しかも、なかなかコロナ禍は収束しないことがわかってきました。活動もままならない中、我々社会教育委員は今何を成すべきか、悩み、色々と模索してきました。

例年であれば、我々社会教育委員の重要な職務は、教育委員会の「事務事業報告」に対する意見書の提出と、社会教育に対する「提言書」の作成であり、「事務事業報告」に対する意見書の提出は無事終了することが出来ましたが、提言書の在り方の議論の中で、提言をすることも重要な任務でしょうが、この未だ経験したことの無い災禍に遭遇し、我々社会教育委員が何を考え、どんな行動・活動をしたか後世に伝えるのも重大な職務なのではないのか、という意見が出ました。そして全委員の皆さんに思いの丈を書いて頂き、社会教育委員活動報告集を作成することになりました。テーマとして、「コロナ禍における社会教育、持続可能な（サステナブル）学びについて」「学都松本」らしさ（普遍的なもの・不易なるもの）」の2つにまとめています。

委員の皆さんの思いの丈が、将来、如何許りなりとも汲んで頂く機会があればと願っています。

令和3年9月

松本市社会教育委員会議 議長 原 勝美

松本市社会教育委員会議の活動経過（R元.10～R3.9）

年月日	会議	内容等
R元.12.16	令和元年度第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育委員会議の概要、活動 ・今期委員の研究テーマの検討（委員として取り組みたいこと）
R2.3.9	令和元年度第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・「委員として取り組みたいこと」を参考にテーマ検討
5.27	令和2年度第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・教育部各課事務事業報告に係る点検評価① ・「委員として取り組みたいこと」から提言書の具体的なイメージの検討。コロナ禍における社会教育の実践として、テレビ会議等の経験について検討
6.8	令和2年度第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・教育部各課事務事業報告に係る点検評価② ・提言書のまとめ方の方向性の協議
6.25	令和2年度第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・点検評価に伴う提言まとめ ・提言書のまとめ方の方向性の協議
7.27	令和2年度第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大後に考えた、社会教育委員として取り組みたいこと
9.4	令和2年度第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大後に考えた、社会教育委員として取り組みたいこと。松本の子どもがどんな子に育ってほしいのか。 <p style="text-align: right;">※オンライン会議</p>
12.5	令和2年度第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・県ヶ丘高校現地研修①
R3.1.30	令和2年度第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・県ヶ丘高校現地研修②
5.26	令和3年度第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・教育部各課事務事業報告に係る点検評価① ・社会教育委員の活動のまとめの方向性の協議
6.18	令和3年度第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・教育部各課事務事業報告に係る点検評価② ・社会教育委員の活動のまとめの方向性の協議
7.9	令和3年度第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・教育部各課事務事業報告に係る点検評価のまとめ ・社会教育委員の活動のまとめ
8.27	令和3年度第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育委員の活動のまとめ（素案検討） <p style="text-align: right;">※オンライン会議</p>
9.27	令和3年度第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育委員活動報告集について <p style="text-align: right;">※オンライン会議</p>

松本市社会教育委員活動報告集の2つのテーマの選定経過

1 コロナ禍における社会教育、持続可能（サステナブル）な学びについて

社会教育委員は、それぞれの立場で多様な活動を展開していますが、令和3年度第3回目の会議で、任期2年の活動を振り返った活動報告集を作ろうと話し合われました。しかし、コロナの出現で委員活動が大きく制約を受けることとなりました。

そこで、コロナ禍において活動を如何に展開していたかを、各委員から報告を頂き、お互いの共通項として捉え、非常事態下の活動の指針になればと、「コロナ禍における社会教育、持続可能（サステナブル）な学びについて」として、1つめのテーマに選定しました。

2 「学都松本」らしさ（普遍的なもの・不易なるもの）

北アルプスや松本城に象徴される古都松本は、幾多の先人方による、「学」（まなび）に取り組む真摯な姿が受け継がれ、「学都」としてのイメージが広く全国に浸透しています。

この学都＝松本をコロナ禍の中、継続して行くための活動は何かを「学都松本」らしさ（普遍的なもの・不易なるもの）として、2つめのテーマに選定しました。

松本市社会教育委員会議 副議長 古市 昭太郎

【活動報告】

1 コロナ禍における社会教育、持続可能（サステナブル）な学びについて

松本市の小中学校では、昨年度からの学校環境の整備、GIGA スクール構想での1人1台端末の導入と校内 Wi-Fi 環境の整備により、コロナ禍での「学びをとめない」ための対応準備が進んでいる。教育委員会をはじめとした関係者の細やかなご尽力に感謝している。

各校とコミュニティスクールを中心とした地域との関わりによる学びは、完全に止まった状態から、できることを着実に進めていくという歩みを見せている。コロナの感染レベルによりその時々への対応状況は変わってくるものの、地域の皆さんに子どもの学びを支えていただいているという確かな実感をもっている。地域の方が、子どもとの関わりを大切にしてくださっていること、子どもとの学びを通してご自身が学びを深めていることをお聞きすることがあり、「教える－教わる」というかつての学びの姿から、「共に学ぶ」協働する学びへと、学校教育・社会教育の考え方そのものが少しずつ変化を始めていると感じている。そうした学びの変化とともに、学校からの地域への発信という新たな協働の姿が増えてくるように思う。

【熊谷委員】

松本の教育の歴史と伝統を意識しつつ、「新たな学び」を吸収し、魅力ある松本市を創り出す、新たな発見や発言を、今まで同様に大切に、全国に誇る教育都市として君臨できるよう広い視野で活動していきたい。

【杉村委員】

松本県ヶ丘高校のオンラインでの授業は、3年前から全生徒がタブレットを所持して行われていて、コロナ禍に抛る休校（昨年緊急事態宣言時）の際には、授業に関しては何の滞りもなく、むしろ進展したとの報告を杉村委員よりお聞きした。先見の明があったといえればそれまでだが、新型コロナウイルス感染症のまん延という稀有な事態になってみて、改めてその取組みがクローズアップさ

れると思う。かなり以前からデジタル化の波が押し寄せていたにもかかわらず、なかなか呼応できずにいた日本的感性の各種団体等に比べて、行動に移した県ヶ丘高校のタイムリーに拍手したい。要するにサステナブルとは、世の中の流れを的確に見つめ判断し、行動に移し、実践してみることの蓄積（成功と失敗の繰り返し）の中から生まれてくるもののような気がする。

他方で、杉村委員のおっしゃる通り、相手を観てコミュニケーションをとる（対面）という人間である以上不可欠な条件は、最も重要で普遍的なものである。

上記の二面（ハードとソフト）を調和させていくことができるような価値観は、個の力（人間力）になってしまうのかもしれないが、私が社会教育委員としてお手伝いできるとしたら、学校教育・生涯学習を含めての、情操教育による徳育の奨励をさせていただくことになると思う。

【白木副議長】

コミュニティスクールの提言書がどう受け止められ実践されているのか・コーディネーター役の館長さんから実態を聞いた。取組みには格差がありコロナ禍では活動中断が多かった。学校、地域が結び付き、子育てに対するビジョンを共有し、学校の悩みや願いを聞き、情熱ある人材を見つけて活動を継続し、コロナで学校に入れない今は、公民館に集まってもらい相談したり、運営会議を続けている工夫も知った。

学校教育もコロナ禍にあって一人一台の端末が入ったり、スマホ、ウェブ会議の普及により子どもたちの学びの場もオンラインでつながったりして世界が広がり、大人がついていけない状態でもある。幸いに私達もオンライン会議を体験できたが三密を避け、意見交換ができる良さと機材の十分な準備と正しく扱うことの必要なこともわかった。また教育で大切な、直接人と人との関わる、伝え合うこと等は、画面では難しいことも分かった。

目まぐるしい社会や教育現場の変化の中で学校と、地域、社会の人たちが、どうつながって未来を担う子どもたちの学びや育ちに関わっていくのか？そのために社会教育委員の役割は何かを考えていきたい。

【祖父江委員】

お互いに語り合い、理解し合うこと、これが私の教育活動の方針である。小学生・中学生・家庭婦人などを地区公民館に集め、音楽会・講演会・スポーツゲームなどをしてきたが、コロナ禍で密を避けなければならない状況のなか、窓は開け放ち、換気扇も回して対応している。

夏・冬休みには集団でのイベントをたくさんしてきたが、人数制限をして密にならない事業を実行しようと考えている。また、外に出たの観察会やウォーキングは、マスクなしでも出来るので、積極的に実施したい。参加人数も徐々に増えている。

【古市副議長】

今回のコロナ禍で痛切に感じたことは、政府から我々国民まで、危機管理に対して余りにも安易であったということである。電子立国を標榜した国家が、国民一律の交付金の支払いを手作業でしか出来ない。病床率世界一が謳い文句の国が、コロナの中等症、軽症者は自宅で療養しろという。コロナ禍早2年、政府は一体何をやって来たのか。これを我々の次元で考えてみると、当初この災禍、すぐに収まるとの政府と同じ甘い認識でいた。行事や会議も差し当たって中止にして回復を待っていた。非常時の活動の経験等皆無で、そんな状況に成ること等の想定など考えた事も無かった。

しかし、こんな状態でも社会活動は持続させていかなければならない。私は、仲間と地域での子育ての活動をしている。コロナ当初からそれを理由に中止ではなく、まず実施することを基本に方法を模索してきた。基本理念を変えなければ方法は自ずと模索できる。

例えば、子供達に故郷を知ってもらう一環としての講座をしてきた。今回は、子どもたちに現地に出向き、故郷の自然・文化財等にじかに接してもらう事業に切り替えた。正月の遊びのカルタ取り・福笑い・双六などを、外に出て凧揚げ・羽根つきなどに切り替えて行った。今まで通例に沿って、簡単な打ち合わせで活動してきたものを、都度打ち合わせを行い、以前より密な学校との関係を築いている。

【原議長】

生涯活動のひとつとして、多世代参画型地域共生コミュニティづくりの構築に尽きる。若者の居場所づくりで、地域の現状の把握と「住みたいまちづくり」の取組みになるかと思う。町内会・公民館活動への不参加、地域伝統行事の縮小・消滅等で、プライバシー保護に注意しながら、地域での人口比率の構図、家庭環境の掌握をもって、失われつつあるこれらの立直しに早急に取り組まなくてはならない。

地域・学校・時には地域内企業が連携を図りつつ、地域の目標やビジョンを共有して、地域全体が一丸となり、「子どもと共に学びたい」「子どもたちに残したい」等の活動が、大きな役割を持っていると思う。

孫を持つ一老人として、機会あるごとに「住みたいまちづくり」の一助になればと思う。

【梶原委員】

コロナ禍に怯え始めた当初、とりあえず収まるまで行事中止と処理されたが、今に至るまで恐怖が続いている。しかし、人々もこの災いに負けることなく、ワクチンの開発、そして接種と立ち向かいつつある。そして、コロナ禍でも社会生活はそれなりに変化しつつも、生き抜く姿を見出している。特に、ITの活躍は目まぐるしく、教育面でも我が松本市は、予想外に早く端末が普及された。これからは、いかに児童生徒と学校間での活用方法が進んでいくかを見守っていきたい。

オンライン授業を先行していた高校は、コロナ禍でも授業進行にはさほどの影響は受けなかったと伺ったが、やはりオンライン授業だけでは補えない場面もあり、時には対面授業も必要になってくることもあると伺い、ITの進む社会においても人間本来の心髄に触れた気がして、安堵した。

コロナワクチン接種の高齢者申込みが始まったときの話で、老夫婦が固定電話で申込みをはじめ、一時間余り経ってもつながらず、疲れ切っていたとき、ふと、孫に頼んでインターネットで申し込むことを思いついた。孫に頼んで10分後、申込終了の知らせが届いたそうで、謝礼として3,000円渡した。ワクチン接種無料とうたっていたが、とんだところで有料になったと苦笑した。これは、

高齢者家庭の今、直面している問題でもある。IT産業が進めば進むほど、どんどん取り残されていく高齢者家庭をどう救うのか、社会教育面でも大きな課題ではないか。

【櫻井委員】

私が、社会教育委員として学んだことの一つに、「県ヶ丘高校の課題探究発表会」がある。まさにこれからの学びであり、持続可能（サステナブル）な学びである。しかも、この学習は、コロナ禍以前からの取組みであり、現在も持続して探究していることを考えると、その先見性に学ばなければならない。

これらの学習を支え、応援していくためには、まさに主体性のある若者たちを、まわりの社会全体で考えていく必要がある。その架け橋になるべく我々「社会教育委員」が果たす役割は大きい。

私たちの研修機会はこの2年間においては、やや少なかった感じはあるが、体験した「オンライン形式」の研修機会も大いに活用する必要性を感じる。

今のコロナ禍において、具体的にどうしたらよいかまだ模索中ではあるが、今の状況における現代的な課題は何かを掴み、スピード感を持って対応していかなければならない。

【小岩井委員】

2年間、社会教育委員として、様々な事を学んだ。

コロナ禍があり、この2年間で世の中のあり方が全く変わってしまった。とはいえ、教育は絶対に必要なもので、形が変わっても続いていく。コロナ禍がなければ何年もかかった変化、特に情報化への対応が大きく進んだ。

人が集い、語り合うことが難しくなった中、小中学生には一人一台の情報端末を配布された。これを活用することで、時間や場所にとらわれない教育など、様々な可能性が広がると思う。ただ、道具があっても使いこなせなければ意味がなく、子どもたちは新しい道具でもすぐに使いこなすことでしょう。しかし、我々大人が使いこなせなければ、子どもと共に学ぶことができない。

また、情報端末は単なる道具であり、それを使って、何をどのように学ぶかが

大切であり、これからの教育に問われていると思う。また、情報端末では”体験する”という部分で、どうしても実現できないこともあると思う。やはり、子どもたちに様々な体験をしてもらう意味でも、社会教育は大切である。そこに人と人の関わりは欠かせないので、情報端末での学びを補佐する体験学習を研究していく必要がある。

【内藤委員】

コロナ禍においても、試行錯誤しながら、それぞれの学校で、学校生活を続けたことは素晴らしいことである。勤務校では、2020年5月からオンラインで授業が始まり、後期からは対面とオンライン授業を併用する形になり、2021年度前期も同じである。クラブ活動も長野県の警戒レベルに応じて、細かく活動時間帯や条件を決めて行っている。高大連携も、昼食の提供を除いて、短縮型で実施している。高校生に来てもらい、授業を提供する内容である。

また、学会、講演会、公開講座の多くがオンラインで行われている。地方に住む者も容易に参加でき、メリットが大きい。これらはコロナ収束後も、オンラインの良い点として続けられていくだろう。しかし、学校の授業の基本は対面授業で変わることはないだろう。補助的にオンラインを利用するのがいいと思う。

【丸山委員】

<オンライン会議>

「ピンチはチャンス！」という言葉がある。今回のパンデミックはあまりにも長大なピンチだが、昨年夏の「オンライン会議」の開催提案は、私には一つのチャンスだった。もともと好奇心旺盛な上に、東京に住む息子夫婦がコロナ病院の最前線で働く医療者であり、なんとかして孫二人の心のケアをしたいと思っていたからである。早速図書館から手引書を借り、Zoomの設定をし、駆け込みで会議に臨んだ。会議自体は不調だったが、リモート参加者同士では意見交換もでき、初めての体験に充足感を得た。あの日以来、集ったすべての委員仲間と体験を共有できなかったのが残念だ…と思っていたが、1年後、オンライン会議が成立し、ほっとした次第である。「失敗は成功の母である」という言い古され

た言葉さえ、身に沁みだ。その後私自身は、公私ともにZ o o mを活用しているが、初心者なりにその利点や欠点が分かってきたところである。

「社会教育」では、人と人とのつながりや絆を大切に育むことが本質である。私もその価値観の上で活動をしてきたし、その想いは変わらない。しかし、パンデミックやその他の厄災がこれからも起こりうると気づいた今、新たなつながり方や絆の可能性を探ることが不可欠であると思う。「理解するためには、まず知ることから始めよう」をモットーとする私だが、社会教育委員としてオンライン会議に挑戦することにより、先行不明な状況にあっても、足踏みするだけでなく、歩を進めることができ、感謝している。

【小林委員】

新型コロナの感染が急速に拡大した令和 2 年度の初頭に「オンライン」による業務（テレワーク）や高等教育では、オンライン授業が普及し、会議でもオンラインによる開催が日常となった。

他方で、公民館行事は軒並み中止となり、今年度に入ってもスポーツ大会や公民館を会場とした行事の中止が続いている。

これまで、人々が一堂に会して行う、例えば講演会や勉強会において、多くの人の前で会場から質問するのはなかなか勇気があるもので、会が終わってから、参加者が質問のために講師を取り囲むというような光景があったが、オンラインでは、その垣根がなくなり、双方向のやり取りが容易になったという利点がある。

コロナ禍における学びでは、従来のやり方に加え、オンラインという新たな選択肢が加わり、それぞれが持つ利点を活かした企画により、学び方が自由になると共に、さらに多くの人々の参画が期待でき、多様な活動が実現されるだろう。

【奥原委員】

コロナ禍におけるサステナブル Sustainable=Sustainable な学びについて、SDGs は 2030 年まで世界が共通して取り組む目標として 17 種類のゴールに分類している。そもそも、そのゴールに向かっての行動は、自主的取り組みから自分た

ちが実践できる小さなサステナビリティがとても大事だといわれている。

今世界規模で問題となっている地球温暖化や、気候変動、異常気象による自然災害、海洋プラスチック等の問題に加え、新型コロナウイルスによって我々の生活は脅かされている。地球の健康状態（化石燃料、人口、貧困、格差、紛争など）は悪化の一途をたどっているのだ。エコロジーの観点から、今の時代に合う生活スタイルを考え実践し、その活動も含め社会教育行政につなげていきたい。持続可能な社会に向けて、私たちの日常生活を実践の場につなげ、身近な課題を自分事として取り組んでいくことが求められるであろう。

そこで、各地区（公民館や地域づくりセンター）・学校・企業など自治体（松本市）が取り組んでいる、活動の場を視察（研修）する機会が身近にあると良いと思う。

【春原委員】

2 「学都松本」らしさ（普遍的なもの・不易なるもの）

地域とともに学ぶコミュニティスクールを中核とした学び、松本市の教育環境（例えば、美術館や博物館と連携した学び、松本城やホール等を利用した学びなど）からの学びを通して、児童生徒の中に、「松本への誇り」、「松本を大切に思う人々の思い」が育ってきていると思う。

学ぶ方法、学ばせる方法も多様になってきている。企業をはじめ学校でも日常的に活用するようになったオンライン環境を取り入れながら、対面だけ・オンラインだけというのではなく、状況や内容により選択しながら、併用しながら進めていける柔軟な対応策を、長期的な視点で講じていくことがいいように感じている。

学校と同じように地域社会の「学びを止めない」ことが、生涯学習社会の基盤を確かなものにしていくように思う。それが、行政と地域、学校と地域の間にある距離感を縮めることにつながり、「学都松本」の思いを地域社会に根付かせていく地道な方策であるように思う。

【熊谷委員】

○今まで通り、古き建物（旧開智学校・旧松本高等学校）を利用して、国際色豊かで、都会の風も取り入れた魅力ある取組みを、保幼・特支・小・中・高・大の連携を一層強くして、誇り高き松本を教育の面からも引っ張られるようにしたい。

○新しい文房具や教具としての ICT 機器の活用（すべての生徒が分かる授業づくり）

○今までとは違った「やらされ感のない」「先生も生徒も面白い」教育が一番の魅力だと考える。

○主体的学習の定義をきちんと押さえることが大切

- ・「毎日の学習活動を計画通りにやり抜く強さ」
- ・「学習のセルフコントロール定着」＝「毎日少しずつコツコツとやり抜く強さ」
- ・この「学習セルフコントロール」の定着には100日間やり抜く「100日間

プログラム」を当たり前前に定着させる。

○他人を思いやる「嬉しい言葉の声掛け」を地域ぐるみで行う。

・「100日間プログラム」の達成には温かな思いやりの心を教員がもって、一人ひとりを大勢の人で応援して励ましたり、激励したり、喜んだりすることが大切である。

・温かな人間性のある「人間愛教育」こそが松本の方には流れていると感じている。

【杉村委員】

<学都松本の位置づけ>

学都が「三ガク都」のうちの一つとしての位置づけなのか、他の「二ガク都」を包含して中心をなすものなのかが分かりにくい。個人的には、嫌みのない形で学都を中心としての三位一体として捉えるのがよいかと思う。「岳都」にしても「楽都」についても、それを介して、学びにつながると考えるのが無理のない解釈だと思う。

<学都松本らしさ>

学都松本の理念は素晴らしいと思う。ただし、松本の近代史を考察すると、学都松本の裏側には間違いなく商都松本があるように思えてならない。おらが町を自分たちのアイデアと努力で作上げようという強い思いを感じるのは私だけだろうか？（一例として今井五介の功績等）この二項（学都・商都）が相まって現在の松本があると思う。その礎になったのは松本人気質（強い自尊心と向上心）である。

<普遍的なもの>

松本人気質（自尊心）は確かに残しつつ、その欠点になりうる協調性の構築（やさしさ・思いやり・ゆずる心）が大事になる。学都松本の理念（真理）に基づいて、自尊心と協調性というともすれば相反するものの調和とその継続が普遍性になると思う。

【白木副議長】

県ヶ丘高等学校の令和2年度課題探究発表会を通して、2年生322人全員が自ら選んだ課題を探究し、まとめポスター作成、短時間の中でのプレゼンテーション、参加者と対話する姿、学び続ける姿に接することができ、一人ひとりの感性が磨かれていることを感じた。県立高校に「信州学」が導入され、いち早く職員が一丸となって取り組み、主体的な学びと挑戦する力を育て、学都松本をめざす素晴らしい取り組みだと思った。探究活動を通してまさに地域の文化、産業、自然を理解し、ふるさとに愛情を持ち、大切にしている心情が込められ、育っているように思った。探究の内容は、他の小中高校の学校教育、公民館、地域の活動の中につながり、共有し、次代にも引き継いでいかれるものではないかと感じた。この探究活動が学校教育、社会教育、生涯教育の場に広がり、子供から大人までが共有し、地域と共に歩む姿、学都松本らしさが実現できることを期待したい。

【祖父江委員】

新しい知識を吸収し、理解し、自己主張につなげられる気質の造成が、ごく自然にできるのが松本らしさかなと思う。

前向きに物事に取り組み、一つの事案を突き詰めて考え、自分のものとして他人に教えることがとても上手にできる、これも松本らしさではないか。

以前に、あがたの森で「学都松本」の、学・岳・楽が足並みを揃えた学習会があり、小学生から大人までのいろいろな団体や、大勢の人々の参加で賑わった。私も皆勤賞だった。

ここにも「学都松本」を自然に吸収する松本らしさがあると思う。

【古市副議長】

松本の人達には文化を自分達で守って来たという自負がある。行政の解体の意向に市民が立ち挙がって守り通した文化財が幾多もある。国宝や重要文化財もあるが、その他にも、時代の流れに抗いながら守り通した文化財の伝承が各地に残っている。廃仏毀釈の折、住職を隠してお寺を守った檀徒の話とか、檀徒が寺の宝物を隠して守った話。廃寺の後も時の鐘として守り通した鐘楼など。また、各地で守り通しておられる民俗信仰・民俗芸能然である。旧盆の前に行く「青山

様」「ぼんぼん」。各地の事八日の行事。各地の特色ある祭礼、ある所は豪華なお船を誇り、ある所では華麗な五つ灯籠を誇りとしている。これらも全ては、一つの地域で守り通したと言う自負が全てなのである。

この普遍的な物を守り通すのは、行政でもなく、社会教育委員でもない。地域の文化の継承という大きな壁に突き当たっていることは事実だが、後継者の育成は、各地区の問題で他地区の人達が立ち入り出来るものではない。同様の問題を抱える地区の皆さんが集まって、情報交換ができる場を作る応援なら我々にもできるのではと考える。

【原議長】

中心市街地から離れていると「〇〇遺跡」「〇〇史跡」といった情報は入ってきても、それを参考に見学や視察にぜひ参加したいといった、高揚的な気持ちになれるような何かが足りないのではないか。

本市に転入してくる高校生・大学生や新社会人に当市の魅力・当市への要望等の投げかけを積極的に行って、その投げかけたアンケートなどの結果から、実効ある「学都松本」につながるものがあるのではないか。

一過的な観光客のアンケート提言も必要だが、長い期間、本市に在住する若者の意見も参考にするために、高校・大学・企業を巻き込んでいきたい。

【梶原委員】

「学都松本」といっても、「学」「岳」「楽」の3つからなる事業であることを、市民のどれくらいの人々が承知しているのだろうか？コロナ禍で学都松本フォーラム講演開催中止に伴い、Z o o mとY o u T u b eでの公開であったこと、特にY o u T u b eでの参加者増と聞くと、喜ばしいことと思う。しかし、まだまだインターネットを自由に使いこなせない市民がいる。パソコンを持っている人は少なくとも、スマホは広がっているのではないだろうか。そして、それを充分使いこなせないでいる人々も。この人たちを底上げするには、地区公民館ではないかと思う。気軽に教えていただく、身近な学びの場と考える。

百年余前から教育面、文化面での前進の姿は、形となっても残されている。こ

の良き歴史を引き継ごうと「学都松本」と銘打っての事業、とても素晴らしいと思うが、市民への浸透力にいささか疑問を感じるのは私だけだろうか。せめてもう少しの理解者がほしい。

現代社会において多くの人々が賛同し、集まることの難しさも痛感している。この事業は、松本市民が少人数でも継続していければよいと考えるか、一層グローバル化に向けての事業にすればよいのか、私自身判断できないが、学都松本へ向けてより一層の発展を祈るばかりである。考えてみれば「学」はともあれ、「岳」や「楽」は、案外多くの市民がすでに馴染んで、積極的に参加しているのではないか。

【櫻井委員】

私は、子ども会から推薦されて社会教育委員として活動した。その原点は、子ども会の活動を基本に、社会教育における課題の認識と提言・委員同士の課題の共有などと考えた。

しかし、現在のコロナ禍では、子ども会の活動だけでなく様々な活動自体が制限され、中止せざるを得ない状況だった。このような中で社会教育委員として活動を続けたが、自分としての成果は、「社会教育委員」の活動のあり方を学んだこと、松本市の「社会教育委員会」の伝統と今までの歩みを実感できたこと、委員会での皆さんとの意見交換で、新しい気づきに新鮮さを覚え、感動したこと、など数えきれない。

私の任期は今年で終了するが、立場が違っても今まで学んだことは、これからの私に新たな意欲を沸き立たせる。松本市社会教育の一層の充実と、松本市に住む全ての人々が、様々な学びを通して豊かに暮らしていける地域社会の実現に、微力ながらここで勉強したことを活かすため、尽力していきたいと思っている。

【小岩井委員】

県ヶ丘高校の生徒たちの研究発表を拝見し、若者ならではの視点に感心させられた。また、郷土への愛着や、身近な事柄への研究などもあり、将来の松本を支える人材として、頼もしく思った。

松本は「岳都」「楽都」「学都」の3ガク都を掲げ、その特徴を発信している。山岳は、北アルプスの豊かな自然や水に支えられている。音楽は「セイジ・オザワ松本フェスティバル」を初めとし、ライブハウスの充実など、様々な分野で音楽のすばらしさを発信している。学びは、明治の頃より、教育に力を入れてきた松本を象徴する「開智学校」や「山辺学校」、「あがたの森文化会館」などを積極的に活用し、松本の教育について知ってもらうことが大切だと思う。

コロナ禍で、開催出来ていないが、「クラフトフェア」は、全国的に知名度も上がり、かなりの人を引き付けている。歴史ある建物を見てもらうだけではなく、そこで何を行うかが大切であり、特に次世代を担う若者に関心を持ってもらうことが重要だと思う。

ぜひ、若者に関心を持って参加できるようなイベントを、高校生などとともに考え、作り上げていければと思う。

【内藤委員】

松本市は、美しい自然環境に恵まれ、松本城を中心とした城下町として栄えてきた。さらに、教育を重んずる文化芸術の息づく「学都」としても発展している。学都松本としてめざすまちの姿が、第二次松本市教育振興基本計画に示されている。その中の「学び続けるまち」、市民一人ひとりが自らの意思で何を学ぶか決め、学び続けるまち、を一番目指すべきと考える。

そのためには、地域や行政のサポートが重要になる。博物館や図書館が、自然科学、文化財、松本について学ぶ機会を提供し、学びの成果を地域の発展に活かしてだけでなく、各課がそれぞれテーマを持ち、積極的に活動をしているので、お互いに連携して学びのサポートをしていくことが望まれる。これらの活動が基礎となって、学都らしい松本が形成されていくと思う。

【丸山委員】

<シニアのためのICT支援>

50代の9年間を民生児童委員として働いたので、増加の一途をたどる一人暮らしの高齢者のことがいつも気にかかっている。先だつてのワクチン接種の

予約の折も、周りの何人かの高齢者（すべて女性だったが）に声をかけたが、「インターネットなんて縁がないし、電話をかけ続けている」という声を複数聞いた。時間はかかったものの予約はそれぞれ完了し、安堵したが、ほとんどの後期高齢者は、インターネットを異次元の世界と考えていることを改めて実感した。

松本市では、公民館等のW i - f i 化が著しいと聞いているが、その周知や利用が進んでいるようには見えない。今回のような事態にこそ、大いに活用できるのではないだろうかと思う。そのためには「人」。例えば、インターネットが得意なボランティアが、地区公民館や町内公民館に場所を借り、知恵を寄せて、近隣の人たちへ手助けができれば、双方が幸せになれるはずである。

「学都松本」のシンプルな究極の姿は、老若男女すべての市民が、楽しく学びあうことであると思う。そして、その根底にある周りの人に対する思いやりこそ、不易なるものといえるのではないだろうか。

【小林委員】

文部科学省が、令和 2 年 3 月に公表した「平成 3 0 年度社会教育統計の公表について」（資料の掲載先は日本政府統計ポータルサイト「e-Stat」<https://www.e-stat.go.jp/>=現在の最新版）によると、長野県における「公民館」の設置数は、全国で断トツの 1,802 館であり、市町村別の数は、本資料からは読み取れないが、2 位以下が 3 桁の数であること考慮すると、相当の数になる。同様に博物館は 75 館（第 1 位）、社会体育施設 1,978 館（第 3 位）、図書館 1 2 5 館（第 6 位）。さらに、これらの利用状況として、公民館の学級講座の開設数（平成 29 年度間）は 9,677 件、利用者数は約 590 万人、体育施設の利用者数は、約 1,177 万人、図書の貸出冊数は約 1,177 万冊といずれも全国の上位となっている。

「学都松本」を考える上では、これまでの素晴らしい実績のように、今後のあり方の中でも、引き続き活用していくことは外せない要件ではないかと思う。

【奥原委員】

松本市が推し進めてきた『学都松本』実現を目指して、「美しく生きる～健康寿命延伸都市・松本」を掲げ、その事業を進めていくための活動として「松本市民生きいき活動」はまさに不易なるものであり、生涯にわたって学び、引き継いでいくべきものである。「新型コロナウイルス」によって教育現場にも過去にない対応を求められた。コロナ禍での教育は、若者にとって大きなストレスをもたらすものとなり、従来の在り方ではメンタルヘルスを向上させることが困難であると言われている。したがって、これまでとは違う角度から学びの場について検討していく必要があるのではないかと考える。

ある調査では、日本人の住みたいまちランキングの上位に松本市が挙げられているようである。自然豊かな環境は松本市の宝とあっていいであろう。生涯にわたって、いつでも・どこでも・誰もが共に学び、育んでいくことのできるまち、松本の一層の発展に期待したい。

【春原委員】

【現地研修】

松本県ヶ丘高等学校「課題探究発表会」現地研修の概要

1 研修の趣旨

松本県ヶ丘高等学校では、生徒一人ひとりが課題を発見し、探究するプロセスを学んでいるなかで、現代の若者が探究的な学びにおいて、何を問題と捉え、どう解決策を考えるのか、社会教育委員として肌で感じ、今後の委員活動に生かしていくもの

2 研修日 令和2年12月5日(土)・令和3年1月30日(土)

3 発表の概要

(1) 発表方法

ア 令和2年12月5日(土) ※課題探究発表会

探究科2年生81名が数グループにわかれ、探究の成果をポスターにまとめ、保護者や生徒に発表

イ 令和3年1月30日(土) ※KENRYO Researchers Grand-Prix

普通科、探究科2年生322名が数グループにわかれ、探究の成果をポスターにまとめ、教諭や1年生に発表。評価が高かった数名が信州大学教授等に発表。県内他校からも数名が発表に参加

(2) テーマタイトル等

次ページ以降のとおり

4 会場 あがたの森文化会館及び松本県ヶ丘高校

5 参加委員

<令和2年12月5日(土)> 原議長、熊谷委員、小林委員、小岩井委員

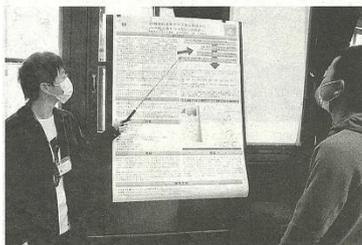
<令和3年1月30日(土)> 祖父江委員、梶原委員、春原委員

6 現地研修を終えての社会教育委員の感想

研修レポートのとおり

課題研究 81人が成果発表

県ヶ丘高探究科の2年生



研究内容をまとめたポスターを使って説明する生徒

松本県ヶ丘高校探究科は、このほど、松本市で「あがたの森文化会館」で、課題探究発表会を開催した。2年生が4月から取り組んできた研究の成果を発表し、訪れた保護者や生徒らに説明した。発表する生徒たちは、問題解決をテーマにした研究の成果を、ポスターにまとめた。発表は、あがたの森文化会館のホールで行われ、内容は、東小春さん(17)が発表した「東日本震災では、高台に逃げた「二高」が分かれ、内容をまとめたポスターを掲示した。災害時に使う単語や表現を調べ、外国人に聞き取りを行い、分かりやすい言葉を置

若い感性 光る研究 自ら課題見つけ

高校生が「解決策」



松本県ヶ丘高で発表会

あがたの森の若くてどんな活? 松本県ヶ丘高等学校の探究科2年生が、このほど、松本市で「あがたの森文化会館」で、課題探究発表会を開催した。2年生が4月から取り組んできた研究の成果を発表し、訪れた保護者や生徒らに説明した。発表する生徒たちは、問題解決をテーマにした研究の成果を、ポスターにまとめた。発表は、あがたの森文化会館のホールで行われ、内容は、東小春さん(17)が発表した「東日本震災では、高台に逃げた「二高」が分かれ、内容をまとめたポスターを掲示した。災害時に使う単語や表現を調べ、外国人に聞き取りを行い、分かりやすい言葉を置

A会場 あがたの森文化会館講堂

発表番号	氏名	テーマタイトル ～サブタイトル～	
前半	1	有賀 水咲 オールジェンダートイレを用いた性別に縛られない学校づくり	
	2	上條 佳夏 あがたの森の池を汚す原因はエサです	
	3	川端 脩斗 ダイラタンシー流体を利用した冷却剤の開発	
	4	近藤 千文 ホワイトノイズを聴いて効率のよい家庭学習を！ ～周囲の音が及ぼす集中力・記憶力への影響の違いから～	
	5	橋本 凌汰 レトルトカレーの可能性	
	6	東原 小春 外国人を災害から守る！ ～変換シートの作成で災害用語を「やさしい日本語」に～	
	7	北和田 浩人 日本固有種の保護を目的とした外来植物の有効活用方法	
	8	渡邊 開 針葉樹の落ち葉を利用した土壌改良剤の開発	
	9	山之上 歩 英語を身近なものにしよう！ ～身の回り品でつくる英語学習グッズ@保育園～	
	10	小松 咲弥 自己肯定感マップによる自己肯定感の向上	
	11	大波 暁斗 ICT機器の使用でデジタル縣陵生に ～他校と差をつけるiPad活用術～	
	12	上原 佳大 指導者の競技経験の有無が与える影響と、指導者のランク分けの提案	
	ホール	13	横山 ひなた 縁側プロジェクト ～大学生の「想い」で高齢者の生活をサポートし、町会の繋がりを生み出す～
21		高見澤 陽菜 高校生のシンプルで良質なlifestyleの実現 ～無印良品で創る感じのいい暮らし～	
22		滝口 桜子 「分婉」と「ヒーリングミュージック」～不安・痛みを軽減する音楽～	
23		百瀬 泰輝 県ヶ丘高校に自生する緑藻の水質浄化力	
24		水野谷 知輝 井戸水の成分の違いは植物の成長に影響しない	
25		川村 咲菜 動画で日々のストレスを解消 ～癒し系動画の制作～	
26		竹内 葵 コロナ禍における視覚障害者の転落事故防止法 ～感染症予防を意識した声かけ、誘導法の提案～	
27		木本 京花 レッグウォーマーの可能性 ～制服のスカートでも暖かく過ごすために最適な防寒具の研究～	
28		花村 美海 言語による〇〇の壁 ～1つの視点ではなく多方面から～	
29		瀧澤 優奈 コロナ禍における動物介在活動のあり方 ～映像を使って高齢者に笑顔を～	
30		小西 佳奈 昼寝で全集中・常中の習得 ～学校に昼寝を取り入れて午後の集中力UP～	
後半	31	山口 峻吾 手をどンドン動かそう ～利き手の運動と脳の活性化の関係～	
	32	山本 尚穂 消臭効果の高い炭で高校生活を快適に	
	33	飯田 典馬 空気圧で起こす目覚まし時計の製作	
	会議室1	14	柴田 周平 名前が与える第一印象及び各年齢層に対する名前に関する調査
		15	稲葉 小春 ネットリテラシーを向上させよう ～フリーアイコンを活用した著作権の認識拡大～
		16	西 七映 H+の含まれる液体及び食用とならないセルロースを含む植物系を利用した酸加水分解によるバイオエタノール生成
		17	河島 穂乃花 忍者の絵巻物を制作し、忍者についての正しい認識と魅力を伝える
		18	萩原 澁太郎 高校生はどんな時に滑りこけるのか
		19	花崎 春 手遊びが秘める効果とその創作 ～松本市内の保育園・幼稚園・認定こども園への調査から～
		20	西谷 ありあ 経験者から学ぶ習い事経験の活かし方
	後半	34	糸井 大哲 牛乳で土壌汚染防止
		35	荒山 花菜 縣陵生の毎日を健康に ～“縣陵たべもの通信”で食の知識UP～
		36	神戸 陽凧 外国人観光客が日本の医療を使う際の不安軽減 ～英語パンフレットを用いて～
37		上島 青空 匂いでツキノワグマと人の生活域を明確にする	
38		藤岡 真希 グリーンカーテンを広めよう ～良さが伝わるパンフレット作成～	
39		宮澤 友貴 サッカーの結果から考える環境が及ぼす勝率への影響 ～コロナ禍における日本とイングランドの違いから～	
40		平林 憩 人工芝を海にたどりつかせない ～サッカーコートから人工芝を流出させない方法の提案～	
41		伊勢 美里 オーダーメイド留学支援の実現 ～プレゼンコンテストによる応募者選抜～	

B会場 県ヶ丘高校

発表番号	氏名	テーマタイトル ～サブタイトル～	
2 2 1	前半	42 三木 晴陽 話して集中力アップ大作戦！！ ～ペアワークやグループワークがもたらす授業への影響～	
		43 橋詰 尚輝 コロナ禍のカラオケ店の活用法の提案 ～学生のカラオケ自習室～	
		44 中嶋 菜月 水の呼吸・拾式の型・浄化 ～身近にあるもの：髪の毛・紙くず・糞・泥・三角コーナーの袋・ホテイアオイ・あさりの殻・炭を使って水を浄化しよう～	
		45 膏木 陸哉 LINEを用いた勤務管理サービスの開発 ～教職員の勤務時間を見える化しよう～	
		46 久保田 謹 立体ハザードマップによる災害被害の最小化	
		47 柴田 由宇 シーン毎にテンポで選ぶ、高校生の日常生活におけるBGM活用法の提案	
		後半	62 羽田 七海 寒天で食べられる防災グッズ
63 武居 杏奈 褒められて生まれる気持ち ～1日を楽しむ自画自賛メソッド～			
64 木藤 匠海 高校生の日常に寄り添うリラックス法			
65 田口 美月 新しい清掃方法で縣陵をキレイに！ ～短時間清掃・少人数清掃の提案～			
66 池田 鼓汰 TOKYO2020 isn't lost. ～オリンピックレガシーを若者に広めよう！～			
67 小林 直輝 ハミルトンの風車を用いた静電気除去器の製作			
2 2 2	前半		48 宮本 純伶 中学生の防災力向上 ～松本市の防災に関するチラシと防災倉庫を学ぶイベント～
		49 成田 鷹晴 ドクダミに含まれる殺菌・抗菌成分の抽出方法	
		50 倉澤 史奈 縣陵エシカル宣言 ～エシカル消費でSDGsアクティブに取り組もう～	
		51 大堀 佐和子 すぐろくと絵本で「アニマルシェルター」を身近に	
		52 大井 隆聖 食品ロスからラーメンへ	
		53 奥原 雅 古典インクによる発展途上国の学習支援	
		54 高橋 慎穂 たくさん読むことで英語4技能を身につける	
		後半	68 奥川 あかり 自然の力でスマホを発電したい！！！！ ～光合成と色素増乾電池を使った発電～
			69 住吉 琉星 野菜を捨てずに調理し家庭から出る生ごみを減らす
			70 中島 萌花 貧困解決の手助けをしよう ～「ネパールコーヒー」プロデュース計画～
71 三澤 理子 人を惹きつける言葉とは			
72 務基 結月 iPad、効率的に使ってますか？ ～縣陵生の学力を向上させるアプリの開発～			
73 千野 陸斗 需要低下した松がれ材を活用するために切れるはさみを作る			
2 2 5	前半	74 大鷹 颯矢 ナメクジに塩はもう古い？！ ～松がれ精油のナメクジに対する忌避効果～	
		55 樋川 瑛 松本市をフェアトレードタウンに！	
		56 横山 太一 藻類を用いた水の浄化方法の提案 ～汚れの除去と水の透明度を上げる方法～	
		57 中嶋 文哉 若者の薬の飲み忘れ防止 ～週間お薬ボックス作成～	
		58 奈良 実咲 項目別観点で考える「わかりやすい授業動画」の条件	
		59 井口 桃花 幼児期の読み聞かせの重要性と発達への関わり	
		60 島 千尋 授業内で完結する記憶方法 ～新しいアクティブ暗記～	
		後半	61 田村 侑祈 ギター収録場所における音の響き方の違い
			75 岡本 啓太 ピクトグラムを動かして住みやすいまちづくり
			76 関谷 由里菜 校内地図改革！！ ～道筋動画で可視化～
			77 唐澤 幸輝 3x3を用いて、地域にバスケットボール浸透を ～バスケットを「見る」スポーツとして楽しむ～
78 黒岡 夏希 ゼオライト触媒を使用してペットボトルキャップから家庭燃料を生成し、プラスチックゴミを削減する			
79 田上 拓人 上海の経験から学ぶ日本の英語教育の改善点			
80 上瀧 優羽 モスキート音を活用した若者の三密の回避は現実的であるか			
81 宮川 奈月 黒い机はダメ！ ～育の濃淡から考える集中できる机の色～			

令和3年1月30日(土) KENRYO Researchers Grand-Prix タイトル一覧

Humanity I

会場：図書室 (担当：成田先生)

発表順	クラス	番号	氏名	探究タイトル
1	D組	6	内山 蓮人	動きたいのに動けない
2	G組	6	大庭 新太	左利きと右利きが平等に暮らすには
3	D組	14	佐藤 雅斗	日本文化の特長点
4	G組	8	勝野 武	日常生活をルーティンで豊かにする
5	D組	23	中島 駿翔	怒りのコントロールをするには
6	E組	32	原山 真穂	友達をつくるのに第一印象は大切か
7	F組	3	太田 凛菜	あがり症の原理
8	G組	9	倉上 卓也	心理学から学ぶスピシーの極意
9	E組	14	小野 葵	短期記憶から長期記憶に
10	D組	29	淵澤 宗周	習慣化しよう!
11	H組	28	松倉 椋	中国語に秘められた可能性

アルプス地域社会賞

(特別賞提供・審査：一般社団法人松本県丘高校同窓会 様)

会場：書道教室 (担当：本山先生)

発表順	クラス	番号	氏名	探究タイトル
1	E組	22	坂下 真善	人気のない漫画は何が原因で人気がないのか
2	D組	36	山本 琴未	文化祭に変化をもたらしたものの
3	B組	38	山本 尚穂	脱臭効果の高い炭で高校生活を快適に
4	松本国際	古畑 杏	持続可能な地球社会のために。～ふるさと納税返礼品考案と作製～	
5	G組	30	細川 聖葉	出生前診断をよりよいものに
6	D組	13	小林 優芽	解散の応援団を存続させるために
7	G組	17	坪井 彩花	猫の殺処分を減らすために
8	H組	9	片桐 光咲	安曇野のわさびを広めよう!
9	E組	36	宮下 流星	Sonsの騎乗中傷について
10	F組	19	竹内 東一朗	山岳トレイルをきれいにするには

街づくり・地域づくり賞

(特別賞提供・審査：株式会社アスピア 様)

会場：131 (3A教室) (担当：藤岡先生)

発表順	クラス	番号	氏名	探究タイトル
1	A組	13	久保田 麗	3Dバザー・ドマップによる自然災害被害の最小化
2	D組	1	飯島 彩奈	テーマパークの環境に対する現状と対策
3	B組	33	水野谷 知輝	井戸水の成分の違いが植物の成長に与える影響
4	H組	15	五味 夏希	松本市内をシェアサイクルで活性化!
5	F組	36	柳原 慧也	水害に強い街づくり
6	B組	35	宮本 純侍	中学生の防災力向上～防災倉庫について学ぶイベントで地球のために行動を～
7	H組	12	川平 千結	中町通りを封鎖せよ!
8	H組	19	高木 蓮大	店員にもお客さんにも優しいコンビニへ
9	B組	4	上島 青空	唐辛子の匂いで熊よけ～Natural Distance with Bear～
10	D組	27	廣瀬 未琴	満員電車の解消には

グローバルビジョン賞

(特別賞提供・審査：野村證券株式会社松本支店 様)

会場：136(社会科教室) (担当：西澤先生)

発表順	クラス	番号	氏名	探究タイトル
1	H組	39	山中 優奈	フェアトレードで社会貢献
2	D組	11	小久保 優作	レジ袋有料化は日本を変えるのか?
3	F組	26	峰崎 朝	外国人住民が安心して医療を受けられる松本市を考える
4	H組	30	松田 芽生	見聞き2校で新聞エコバック
5	B組	31	藤川 瑛	松本市をフェアトレードタウンにしよう!
6	E組	13	小倉 快仁	新しい時代の職業観
7	H組	6	大井 基史	日韓問題について考える。
8	A組	16	神戸 陽風	日本の医療を使う際の不安軽減により外国人観光客を増やそう
9	A組	27	中島 朝花	貧困解決の助けをしよう～ネパールコーヒープロデュース計画～

『未来のかたち』デザインワード賞

(特別賞提供・審査：松本土建株式会社 様)

会場：141 (3E教室) (担当：澤野先生)

発表順	クラス	番号	氏名	探究タイトル
1	E組	27	瀧上 遼	アレルギによる危険～多角的なバリアフリーの実現～
2	E組	4	あら井 秀斗	エコバックは本当に環境に良いのか
3	B組	8	大庭 悠和子	絵本とすぐ近くで「アニマルシェルター」を身近に
4	G組	23	中村 美月	牛乳とマッチング!～毎日の給食をもっと楽しく～
5	E組	25	世良 真悠子	高校野球では先攻後攻どっちが有利?
6	A組	23	武居 杏奈	自画自賛で心にゆとりを
7	D組	34	山崎 裕太	集中力は運動することで上がるのか?
8	C組	24	中村 和輝	水力発電の可能性
9	H組	13	木南 彩	保存の仕方と変わる食品ロス問題
10	A組	18	柴田 周平	名前が与える第一印象及び各年齢層に対する名前に関する調査

Social science I

会場：142 (3F教室) (担当：青木先生)

発表順	クラス	番号	氏名	探究タイトル
1	H組	5	宇治 優香	映画を観て人権を学ぶ
2	C組	33	横山 悠斗	英語力を高めよう
3	E組	33	平林 祥二	過疎化を止める...
4	F組	27	古川 真葉	環境と勉強意欲の関係
5	E組	38	山田 清流	高校生に身近な場所で勉強がはかどる場所とは?
6	H組	37	宮澤 宗汰	山村留学で長野県に活気を
7	G組	26	萩原 陸幸	松本を外国人が住みやすい町に
8	D組	3	板花 光紀	長野県は避暑地なの?
9	C組	3	倉里 大夏	日本製組織と遊撃隊
10	B組	2	井口 桃花	絵本の教育的効果と心理的影響～幼児期の読み聞かせからわかること～

Humanity II

会場：132 (3B教室) (担当：浅井先生)

発表順	クラス	番号	氏名	探究タイトル
1	B組	32	三澤 理子	「なんともなく気になった」から危機感に一致字を用いた宣伝の効果について～
2	F組	38	山田 優輝	「超個人的田、最強の英単語の覚え方決定戦」
3	H組	35	三村 雅哉	ゲーム化で習慣化する方法
4	E組	16	川島 悠希	悪癖を治す方法
5	A組	38	山口 峻吾	手をどンドン動かそう～利き手の運動と脳の活性化の関係性～
6	D組	15	柴崎 彩輝	笑顔が人に与える効果
7	H組	20	竹内 佑輝	読書の現状と電子書籍について
8	D組	31	矢ヶ崎 光	成功者の共通項
9	G組	5	大沢 晴紀	目覚ましの音と目覚め
10	D組	7	加藤 光翼	勉強の効率化

WX (ワールドトランスフォーメーション) 賞

(特別賞提供・審査：株式会社グラフィック 様)

会場：133 (3C教室) (担当：小林先生)

発表順	クラス	番号	氏名	探究タイトル
1	B組	29	羽田 七海	「寒天で食べられる防災グッズ」
2	A組	5	伊勢 美里	オーダーメイド留学支援の実現～プレゼンコンテストによる応募者選抜～
3	F組	21	中嶋 大晴	マグロにおきている問題
4	B組	22	高見澤 陽菜	高校生のシンプルで良質なlifestyleの実現 ～無印良品で劇的感のいい暮らし～
5	F組	30	水口 彩	写真で人を笑顔にしたい
6	A組	7	大井 隆聖	食品ロスからラーメンへ
7	B組	40	渡邊 開	針葉樹の落ち葉を利用した土壌改良剤の開発
8	F組	1	石山 周太郎	地球温暖化による土壌の呼吸の促進
9	F組	17	高橋 里彩子	日常生活と心理学
10	D組	10	黒岩 風汰	自転車から自転車の事故を無くすために提案する【解読Bicycle Map】

Humanity and Social science

会場：134 (3D教室) (担当：羽根先生)

発表順	クラス	番号	氏名	探究タイトル
1	F組	34	望月 陽菜	人格を形成するのは遺伝か、環境か
2	A組	2	井澤 元和	ガムを増やすと集中力は上がるのか
3	G組	14	須山 愛輝	ベビーパウダーで水を守る
4	D組	39	吉見 健志	スポーツ観戦と人種差別
5	H組	14	藤原 至恩	ねこの殺処分をゼロに
6	G組	21	中村 夏瑛	パーソナルスペースと勉強
7	F組	40	横山 雪広	化粧行動における自己防衛と対人効果
8	E組	2	赤羽 宏太	緊張をやわらげる方法
9	F組	18	山口 蓮太	コロナ禍でのスポーツの在り方
10	H組	2	秋葉 洋輝	iPadを最大限に活用する!!!

Kenryoデジタルビジョン賞

(特別賞提供・審査：株式会社テレビ松本ケーブルビジョン 様)

会場：143 (3G教室) (担当：陸奥先生)

発表順	クラス	番号	氏名	探究タイトル
1	F組	31	三村 雄斗	eスポーツはスポーツと呼べるのか?
2	E組	30	西尾 一優	学習に集中するための環境づくり
3	B組	7	大波 院斗	ICT機器の活用でデジタル履修生に～他校と差をつけるiPad活用術～
4	D組	33	柳澤 陽希	「ゲームは悪」というイメージをなくすには
5	B組	18	近藤 千文	ノイズを聞いて効果的な家庭学習を1～音が及ぼす集中力・記憶力への影響の違いから～
6	D組	38	横田 航輝	ゲームが健康に与える影響
7	A組	1	青木 陸哉	「ブラック」な教育現場をITの力で働き方改革
8	E組	29	永瀧 輝	ブルーライトが人に与える影響
9	A組	6	稲葉 小春	ネットリテラシーを向上させよう～フリーアイコンを活用して著作権に対する認識拡大～
10	E組	1	青山 莉沙	授業時間を有効活用させよう!

Social science II

会場：144 (3H教室) (担当：横田先生)

発表順	クラス	番号	氏名	探究タイトル
1	G組	7	奥原 樹	NPO法人の人材問題について
2	C組	8	黒木 玲真	授業中に眠くなる理由とその対策
3	G組	40	吉村 心希	キャッシュレス決済をより広く普及させるために
4	H組	10	上嶋 藤也	コロナ禍で飲食店が生き残るには?
5	F組	24	平島 巡	ふるさと納税
6	D組	22	中澤 新	唐櫃りから考える学校という場について
7	G組	15	関 岳志	電車の車内環境
8	C組	9	毛塚 祐輝	新型コロナウイルスを防ぐためのキーワードは長野でテレワーク
9	E組	34	丸山 逸平	地方の博物館の発展
10	G組	39	山田 隆志	被災地への募金をもっとしてもらうために

地方から行動する・Act local賞

(特別賞提供・審査：一般社団法人松本ヘルス・ラボ 様)

会場：147 (LL教室) (担当：伊東先生)

発表順	クラス	番号	氏名	探究タイトル
1	A組	35	藤岡 真希	グリーンカーテンを広めよう～良さが伝わるパンフレット～
2	G組	37	山田 輝敏	山形村の砂嵐を改善するために
3	C組	23	中島 果子	綺麗の基本
4	松本学園	村田 郁歩	音楽療法とこれから	
5	E組	19	小柴 鈴	色が与える集中力への影響
6	E組	6	石井 澤	ストレス社会には自然の癒しを!
7	C組	30	古藤 めぐみ	学校生活での紙の使用について
8	F組	12	栗林 良太郎	自分だけの睡眠時間を見つけよう!
9	E組	12	岡村 豪大	横断歩道の自動車停止率とその背景
10	H組	23	中村 文音	長野県への過剰な観光客により引き起こされる病気をいちごで解決!

Decent Work and Economic Growth 賞

会場：211 (1E教室) (担当：宮澤先生) (特別賞提供・審査：〒647-0077 和歌山県 和歌山 合同会社 様)

発表順	クラス	番号	氏名	研究タイトル
1	C組	22	藤原 奈穂	天候が経済に与える影響
2	H組	22	富樫 葉月	看護師の人手不足解消～多すぎる病床数～
3	F組	2	内田 美保	働きやすさと働き方改革
4	H組	7	大島 健太	購買の持つ最高のパフォーマンスは何か
5	G組	27	花岡 美穂	漫画がもたらす経済効果
6	B組	27	橋詰 尚輝	コロナ禍のカラオケ店の活用法の提案～学生のカラオケ自習室～
7	H組	31	松原 伶奈	花見小路での観光客のマナー対策

Social science III

会場：212 (1F教室) (担当：馬場先生)

発表順	クラス	番号	氏名	研究タイトル
1	C組	10	幸野 結衣	日本の避難所を安心して過ごせる空間にするために
2	G組	22	中村 杜見	私の考える最高の職業
3	H組	34	御子 紫涼生	長野県の不審者による被害を減らそう
4	D組	26	肥後 心音	数が苦から数楽へ～数学苦手を解消して楽しく数学を学ぼう～
5	E組	8	伊藤 綾香	ファッションからサステイナブルを考える
6	F組	4	奥村 優太	レジ袋の有料化は地球温暖化対策になった？
7	G組	20	中田 小春	ジオキャッシングで安曇野への観光客を増やそう！
8	C組	11	小林 俊介	コロナ禍における避難所の問題対策
9	G組	25	西澤 萌	口癖でメンタルバリアをよりよく
10	C組	35	望月 祐里	駐輪場の混雑を解消するには
11	H組	3	浅井 竜矢	eスポーツの発展

ICTイノベーション賞

会場：214 (1G教室) (担当：古林先生) (特別賞提供・審査：株式会社ユリカ 様)

発表順	クラス	番号	氏名	研究タイトル
1	A組	11	川村 映葉	動画でストレス解消～癒し系動画の制作～
2	G組	33	宮澤 哲彦	オンライン学習の改善
3	C組	34	宮田 裕大	YouTubeの収益について
4	H組	33	丸山 晴也	ICT化が森を救う！？
5	E組	28	戸田 冬弥	音楽によって自覚めは変わるのか
6	F組	25	降旗 正祐	ゲームと勉強の併用に必要なのか
7	G組	10	栗田 広大	プログラミングは教育に必要なのか
8	B組	36	務谷 結月	iPad、効率的に使ってますか？～高校生の学力を向上させるアプリの開発～
9	H組	8	岡田 龍	スポーツ観戦をもっと楽しく！
10	E組	7	石原 圭	投射運動シミュレーションを分かりやすくするために

Most Attractive Activist 賞

会場：225 (担当：御原先生) (特別賞提供・審査：株式会社パーパネット 様)

発表順	クラス	番号	氏名	研究タイトル
1	A組	4	池田 毅汰	オンラインレガシーを若者に広めよう！ 無形レガシーからのもくもく賞オンラインブック
2	C組	40	吉沢 彩乃	ソーシャルディスタンスを保った音楽イベント
3	B組	14	木本 京花	レグワーマーの可能性～制服のスカートでも履くことで最大の防災具～
4	H組	17	白川 晴香	映画でメンタルヘルスケア！
5	A組	33	東原 小春	外国人にやさしい災害情報～実践シートの作成で「やさしい日本語」を普及する～
6	F組	29	三沢 友乃	学ぼう、18R ～ 私たちにできる環境対策って？～
7	F組	16	笹岡 彩乃	級差分0へ
8	A組	34	平林 勉	人工芝を海にたどりつかせない～サッカーコートから人工芝を運出させない方法の提案～
9	H組	40	横澤 峻弥	認知症患者と旅行へ行くためには
10	B組	1	荒山 花菜	高校生の毎日を健康に～「献腹たべもの通信」で食の知識UP～

アート・デザイン社会共生賞

会場：231 (2C教室) (担当：小口先生) (特別賞提供・審査：MAGMAGInc. 様)

発表順	クラス	番号	氏名	研究タイトル
1	B組	28	橋本 凌汰	レトルトカレーの可能性
2	G組	2	伊藤 洋介	美術教育と美術への関心の結びつきについて
3	上田 高枝	長崎 航平	芸術を着よう！	
4	A組	20	関谷 由里菜	校内地獄革命！～道筋の可視化・可聴化～
5	B組	34	宮川 奈月	黒い机はダメ！～青の濃淡の違いから考える集中できる机の色～
6	C組	33	松田 果歩	左利きのバリアフリー
7	G組	3	故馬 永典	良質な睡眠をとる
8	B組	12	河島 穂乃花	地産物で志者の笑顔と魅力を発信！～史実に基づく志者についての地産物制作～
9	H組	29	松下 怜司	毎日着なくなる服をつくる。-reiji matsushita 21ss-
10	B組	24	千野 陸斗	需要低下した松が材材を活用するために切れるはさみを作る

Health science I

会場：232 (2D教室) (担当：日下部先生)

発表順	クラス	番号	氏名	研究タイトル
1	A組	3	飯田 典馬	空気圧で起こす自覚時計の製作
2	C組	6	小口 流依	マイズ族から半視力低下対策
3	G組	31	松澤 創	眠気と日常のつながり
4	D組	16	浜田 京太	病院で舌診をしないのはなぜか？～舌診を広めよう～
5	E組	3	赤羽 短那	体育の授業を全員で楽しもう
6	A組	21	滝口 桜子	「分鏡」と「好きな曲」～不安・痛みを軽減させる音楽～
7	G組	24	西澤 凱陽	日中健康に過ごすことが出来る睡眠時間と寝室の環境
8	C組	38	山元 敏	マスクと共に快適な暮らしを！
9	G組	38	山田 利子	スポーツパフォーマンスの向上
10	H組	4	有賀 玲奈	日焼け止めの効果が一番強いものってどれだろう

Natural science

会場：215 (1H教室) (担当：宮坂洋先生)

発表順	クラス	番号	氏名	研究タイトル
1	B組	17	小林 直輝	動く静電気除去器の製作
2	D組	35	山本 刺薫	色の違いと記憶力
3	C組	27	平田 メイ	全ての保護犬・猫に家族を
4	C組	17	滝澤 有泉	もう風に揺る毛をつかせない
5	B組	6	大塚 優矢	ナメクジに塩はもう古い？！松がれ精油に対するナメクジの忌避効果
6	F組	14	古閑 貴裕	天気が人に及ぼす影響
7	E組	40	横森 威吹	入試から考える暗記数学
8	F組	15	古神子 拓真	数学を楽しく！そして得意に
9	A組	12	木藤 匠海	高校生の日常に寄り添うリラクセス法
10	F組	39	山田 若菜	多肉植物の耐乾性

Innovating Energy Technology 賞

会場：221 (2A教室) (担当：赤塚先生) (提供・審査：富士電機株式会社 様)

発表順	クラス	番号	氏名	研究タイトル
1	D組	21	長井 真奈可	CAM植物の性質を日常生活に活かそう
2	A組	30	西 七咲	バイオエタノール生産-生成物(酢)を含む液体を利用したセルロースを食料の乾燥脱水分解-
3	G組	32	丸山 とわ	プラスチックごみとの共存戦略
4	B組	37	百瀬 義輝	県ヶ丘高校に自生する緑藻の水質浄化力
5	B組	9	奥川 あかり	自然の力でスマホを充電したい！！！！
6	D組	9	加納 優実	自転車に楽にござい！
7	O組	18	高山 蒼太	障がい者に寄り添う電子楽器の製作～装置とプログラミングの開発～
8	E組	26	菅根原 愛里	匂いを使って暗記力アップ！
9	B組	13	北和田 浩人	日本固有種の保護を目的とした外来植物の有効活用方法
10	D組	30	矢ヶ崎 素太	燃料電池車の必要性

Natural science and Technology

会場：222 (2B教室) (担当：森澤先生)

発表順	クラス	番号	氏名	研究タイトル
1	C組	2	市川 拓真	豆苗に悪口を言った場合の育ち方の違い
2	D組	28	保科 瑞希	蒸雨被害を防ぐために
3	C組	28	平戸 遼	観天望気と天気予報
4	E組	15	金田 潤平	虹をみるために
5	E組	35	三木 貴裕	工事と環境
6	F組	7	勝家 森太	レジ袋有料化で露プラスチックゴミは減るのか
7	G組	35	矢口 雅	災害関連死を減らすために
8	H組	1	赤羽 健吾	レジ袋有料化のメリットデメリット
9	B組	26	萩原 澁太郎	転倒から身を守る！～靴底のサンダルの傾向と危険性～
10	H組	24	中村 小雪	レジ袋有料化について考える。

Society & Community 賞

会場：233 (2E教室) (担当：石坂先生) (特別賞提供・審査：クラウドドット株式会社 様)

発表順	クラス	番号	氏名	研究タイトル
1	A組	2	有賀 水咲	オールジェンダートイレを用いた性別に縛られない学校づくり
2	A組	15	上瀬 優羽	モスキートネットを活用した若者の三密の回避は現実的であるか
3	A組	24	竹内 葵	視覚障害者の転落事故防止～声かけ・見守りの提案～
4	A組	31	西谷 ありあ	習い事で人生を豊かに～自分に合った習い事の選び方と習い方～
5	B組	21	高橋 慎徳	毎日15分の読書で英語力UP
6	A組	19	鳥 千尋	授業内で完結する確認方法
7	A組	28	奈良 実咲	項目別観点で考える「わかりやすい授業動画」の提案
8	B組	23	瀧澤 優奈	コロナ禍における動物介在活動のあり方～映像を使って高齢者に笑顔を～
9	E組	37	山崎 ひなた	勉強中の休憩をしっかりと切り上げるには
10	A組	36	三木 晴隆	経て動いて日本の教育を変える！～みんなで集中力アップ大作戦～

バスケットボールをもっと元気に賞

会場：235 (2F教室) (担当：濱川先生) (特別賞提供・審査：株式会社信州スポーツスピリット 様)

発表順	クラス	番号	氏名	研究タイトル
1	H組	38	三好 勇輝	日本とアメリカの野球選手の違いは？
2	B組	11	藤澤 幸輝	3x3を用いて地域にバスケットボールの浸透を～バスケットを見て楽しむ～
3	A組	37	宮澤 友貴	サッカーの試合から考える環境が選手への影響～コロナ禍における日本とイングランドの違い～
4	H組	32	渡瀬 伶介	ダンクシュートも夢じゃない!!ジャンプ名人に聞いてみよう！
5	F組	28	堀金 空広	若者から始めるジビエの活性化
6	E組	24	住吉 叶	高校生のための日焼け止めガイド
7	F組	23	原 万由里	「腹せる～食べない」は正しいのか～新体操選手の理想の食生活について～
8	H組	36	宮坂 美音	長寿な長野県から学ぶ健康

Health science II

会場：236 (2G教室) (担当：西澤俊先生)

発表順	クラス	番号	氏名	研究タイトル
1	C組	19	千駄 政希	ベターな睡眠
2	E組	18	栗原 拓真	ホースセラピーで健康に
3	H組	25	蓮本 朝々子	医療格差を緩和するために
4	C組	14	酒井 心寛	音楽ゲームでストレスフリーな生活を
5	G組	12	小林 菜穂	花粉症
6	D組	5	今井 結蘭	献血について
7	F組	35	百瀬 賢佑	高校生の運動習慣
8	A組	22	中嶋 文哉	若者の薬の飲み忘れ防止～週間お薬ボックス作成～
9	C組	26	内藤 雅人	将来の髪を守ろう
10	D組	37	山藤 大地	黄ばみずりの可能性

Hope for Shinshu (※)

(特別賞提供・審査: 特定非営利活動法人 SODP 様)

会場: 237 (2H教室) (担当: 平林先生)

発表順	クラス	発表者	氏名	発表タイトル
1	A組	39	山之上 歩	英語を身近なものにしよう〜身の回り品から作る英語学習グッズの保育園〜
2	H組	21	稲谷 研人	事故と自己
3	D組	32	矢島 沙也佳	若者におやきを!
4	B組	30	花崎 幸	手遊びがめぐる熱気とその創作〜松本市内の保育園・幼稚園・認定こども園への調査から〜
5	F組	32	三村 莉大	書店の減少を食い止めるには
6	A組	22	田口 美月	清掃をすれば世界が変わる!〜清掃で発展途上国を救おう〜
7	B組	16	小西 佳奈	風塵を用いて麻酔生の午後の授業態度改善
8	F組	10	木村 涼乃	オンライン留学で世界を身近に!
9	B組	39	横山 ひなた	映画プロジェクターポラリティアワー入賞しの賞状をマウントし、語り物で地域の誇りを作る〜
10	C組	12	近藤 花音	自分の髪の毛を好きになろう

※一次審査通過者はこのうち7名である

グローバル・サイエンス賞

(特別賞提供・審査: 株式会社松本マツダオート)

会場: 313 (理科講義室) (担当: 百瀬先生)

発表順	クラス	発表者	氏名	発表タイトル
1	F組	37	山田 愛純	プラスチックレジ袋有害化から考える環境問題
2	A組	10	川端 橋斗	ダイラタンシー流体を利用した冷却剤の開発
3	B組	3	糸井 大哲	牛乳で土壌汚染防止
4	A組	40	横山 太一	藻類を用いた水の浄化方法を提案しよう
5	B組	25	中嶋 葉月	ホテイアオイと炭を使って水を浄化しよう!
6	B組	10	上條 佳夏	あがたの森の池を汚す原因はエサです〜水天コーティングエサで池を綺麗に〜
7	A組	29	成田 廣晴	ドクダミに含まれる殺菌・抗菌成分の抽出と合成
8	B組	15	黒岡 夏希	ペットボトルキャップから家庭肥料を生成し、プラスチックゴミを削減する。
9	F組	11	栗林 由月	物の効率的な数え方
10	A組	9	奥原 雅	古典インクは古くない!〜古典インクを使った発展途上国の学習支援〜

Health science III

会場: 321 (生物教室) (担当: 所先生)

発表順	クラス	発表者	氏名	発表タイトル
1	B組	5	上原 佳大	指導者の競技経験が部活動に与える影響と部活動指導員ランク分けの提案
2	C組	16	城塚 壮太	より良い仮眠の取り入れ方
3	E組	5	飯田 菜央	朝スッキリ起きられるためには
4	C組	25	橋本 珠	日焼け止めの肌への影響
5	F組	13	持戸 春音	不快臭を抑制する方法
6	C組	18	田中 紗奈	ハーブは本当に効果があるのか
7	H組	27	平林 理子	X脚O脚X脚をなおそう!
8	C組	36	山下 知真	糖尿病の病態と対策
9	G組	11	小坂 拓海	水を飲んで健康に生きよう
10	H組	16	山藤 康瑛	天然パーマを手軽にマニに

Home Economics

会場: 412 (1D教室) (担当: 伊藤道先生)

発表順	クラス	発表者	氏名	発表タイトル
1	C組	13	斎藤 ひより	アプリを活用して身近な食品ロスを削減しよう
2	D組	17	須藤 花名	好き嫌いを克服して食事をもっと楽しくする
3	C組	21	友野 胡香	HYGGE (ヒュッゲ) な暮らしをおくろう
4	D組	12	小西 里奈	食べても太りません
5	C組	26	原 知愛	冷凍保存で食品ロス対策
6	E組	9	伊藤 舞	ピーマンは切り方で味が変わる??
7	C組	37	山田 真桜子	ぬいぐるみと子育て
8	D組	20	田中 裕基	最適なりもト環境とは
9	G組	16	高山 倫生	魚離れが作る世界
10	F組	6	樹右 翔太	俺の勝飯〜試合前の補食がパフォーマンスを突えろ〜

スズキ音楽賞

(特別賞提供・審査: 公益社団法人 才能教育研究会(スズキ・メソッド) 様)

会場: 421 (1A教室) (担当: 染野先生)

発表順	クラス	発表者	氏名	発表タイトル
1	C組	20	寺澤 美空	日本でパレエを親しみやすいものにするには
2	A組	25	田村 侑祈	ギターの収録場所による音の響き方の違い
3	B組	19	柴田 由宇	目的別にテンポで選ぶ、高校生のためのBGM活用法の提案
4	G組	28	伴 啓輔	音楽と集中力との関係
5	D組	4	伊東 わか葉	クラシック音楽で快適な睡眠を!
6	F組	20	田中 晃希	勉強する前にどんな曲を聞くといいのか
7	G組	13	小林 泰智	音楽はスポーツを教える
8	F組	33	向山 琴野	私たちがつくる音楽の未来
9	G組	18	所 紫野	日常を音楽に〜音の力でパフォーマンスを向上させる〜
10	C組	7	黒木 彩花	音楽で良い睡眠を

Art

会場: 422 (1B教室) (担当: 島崎先生)

発表順	クラス	発表者	氏名	発表タイトル
1	D組	8	加藤 夢魚	道路標識から学ぶデザイン
2	E組	11	井上 凜音	自分に似合うワンカラーネイル
3	E組	10	伊藤 悠	光と影で盛る
4	F組	5	押野 亮汰	たけのこの里かきのこの山どっちにする?
5	G組	36	柳澤 竜成	睡眠と音楽の関係
6	F組	22	永田 七実	音楽の好みとリラクセスの関係性
7	H組	18	高橋 優佳	勉強に取り入れられる色
8	G組	4	大久保 唯葉	パーソナルカラーでより自分を輝かせよう!
9	E組	39	山本 晃輝	ドラムによる消費カロリーの変化
10	G組	19	永田 佳奈子	5教科のイメージカラーは教科書の色によるものなのか

グローバル・シチズン賞

(特別賞提供・審査: 病院の学びを支援する会 様)

会場: 331 (物理教室) (担当: 輝川先生)

発表順	クラス	発表者	氏名	発表タイトル
1	A組	32	花村 美海	あらゆる母国語を持つ人々が住みやすい社会へ
2	C組	5	小川 薫一郎	ゲームをしても健康でいるために
3	D組	25	中村 優里	英語学習を実用性のあるものに!
4	G組	1	飯澤 すす	記憶に残りやすい勉強法とは
5	A組	17	小松 咲弥	自己肯定感マップによる自己肯定感の向上
6	B組	41	田上 拓人	上海での経験から学ぶ日本の英語教育の改善点
7	F組	9	上條 経果	人を引きつける話し方
8	D組	19	武田 琴羽	生姜を食べて免疫力UP!!
9	H組	11	川口 諭音	洋書を普及させる
10	A組	14	倉澤 史奈	隣国エンシカル宣言

Health, Home Economics, Art

会場: 335 (地学教室) (担当: 藤田先生)

発表順	クラス	発表者	氏名	発表タイトル
1	G組	34	宮本 紗希	17の魅力
2	C組	15	清水 駿佑	BGMの効果と有効的な利用法
3	A組	8	岡本 啓太	ピクトグラムでいまちづくり
4	C組	4	大森 夏希	ゆめまるHappy隊について知ってもらおう
5	C組	31	保谷 昂輝	より良い睡眠を取るために
6	E組	31	西澤 茶葉果	上がりづらい嫌いな科目の点数を上げて心を健康に
7	C組	1	浅井 瑞音	青をつかうことで
8	E組	23	逸藤 春弥	短時間睡眠で疲れをとる〜睡眠の質をあげる枕〜
9	H組	26	林 優奈	超高齢社会と地域包括ケアシステム
10	B組	20	住吉 琉星	野菜を捨てずに調理し家庭から出る生ゴミを減らす

アルプス人権賞

(特別賞提供・審査: 特定非営利活動法人 ITサポート課のかさぎ様)

会場: 411 (1C教室) (担当: 松岡先生)

発表順	クラス	発表者	氏名	発表タイトル
1	C組	32	松澤 千穂	子どもの貧困と教育格差について
2	D組	24	中富 三菜子	性別によって学校生活が制限されないためには
3	E組	20	後藤 百華	防災靴を履きながら子どもたちの笑顔を見守る〜SDGの視点で防災靴は実現可能?!〜
4	D組	40	輪湖 ななみ	女性が活躍するために
5	F組	8	加藤 杏由夏	ヘルプマークを普及させるには
6	E組	17	倉田 真翔	ヘッドネーションを広めるためには
7	G組	29	深澤 美結	子育てが笑顔に溢れるための方程式
8	E組	21	小松 結夢	みんなの学校

松本県ヶ丘高等学校「課題探究発表会」(R2.12.5) 研修レポート

1 課題探究発表会に参加しての総合的な感想

- 生徒の視点で多様なテーマが設定され、追究・発表につながる学びのサイクルが構想されており、新・学習指導要領で考えている「学力」形成の取り組みを具現している。

SDGsへの取り組みがベースにあり、生徒自身が、Well-being 具現に向けた学び（追究していることが社会をよりよくすることにどうつながるか）の根幹のところをきちんと押さえられる教育課程（環境づくり）が丁寧になされていると感じた。

ユニークなテーマが追究されており、また、追究過程やポスターセッション時のコミュニケーション等の場面設定等も含め、生徒一人ひとりの主体性と学ぶ意欲を育む教育課程が構想されている。

個々のテーマへの適切な指導・支援は難しい。ここに挑戦する「未来を担う人づくり」を進める県ヶ丘高校の強い意志と情熱を感じる。

【熊谷委員】

- これからの高校の教育方法、こういう活動が大切だと思いました。現在の教育、ルールに沿って進むのをよしとしているような気がします。自分で道を決める自覚が出来ればと思います。

皆さん堂々と発表していました。研究発表をする人以外普通の生徒さんはなかなかこんな機会は無いと思います。自分の意見・知識を他人に伝える訓練にもなります。

研究途中と思われる発表もありましたが、最後のまとめまで聞いてみたいと思いました。今後の報告会も期待しています。

【原議長】

- 「探究科」の何たるかもよく知らず、予備知識のないまま参加いたしました。物理的にも心理的にも、今の私には遠く離れた存在の高校生（実際には中学生の参加者が多かったのでしょうか？）の中に紛れこんで右往左往していた数十分というのが、率直な感想でした。が、後日、送られてきたポスター集をじっくり読ませていただき、私自身の大学卒論作成時の記憶もよみがえり、感慨を深くしました。

生徒のみなさんにとっては、自分のテーマを見つけることが、最初のそして最大の関門だったと思います。その時期がおそらく新型コロナウイルスによる休業措置期間と重

なってしまったのではないかと推察しますが、ほとんどのみなさんが「考察」まで辿りついていて、その奮闘ぶりを感じました。先生方のご指導にも頭が下がります。

個人的に興味深かったのは、着眼がユニークなもの、「実際にやってみよう」という姿勢が強く感じられたもので、次のとおりです。

- 1 9 (手遊び) 2 9 (動物介在介護) 2 7 (レッグウォーマー) 3 2 (炭)
3 3 (目覚まし時計) 3 5 (縣陵たべもの通信) 3 8 (グリーンカーテン)
4 2 (ペアワーク・グループワーク) 4 6 (立体ハザードマップ)
4 8 (中学生の防災力) 5 8 (わかりやすい授業動画) 6 5 (新しい清掃方法)
6 6 (オリンピックレガシー) 7 3 (松がれ材利用のはさみ)
7 4 (松がれ精油とナメクジ)

私自身も、「タイトルの右に掲げてある(ピクトグラムのような)マークは何だろう？」という疑問をきっかけに、「SDG s」という大きな標語について、学ぶことができました。世界中が眼前の一つの敵にオロオロしている昨今だからこそ、大きな理想目標ともいえる「SDG s」について再考することも大事なのかもしれません。

【小林委員】

- ・ 今の子どもたちは、自分の高校時代の思い出とは、まったく違った学習環境で学んでいるのだと知ることができました。それがとてもうらやましく感じています。こんな高校生活ならもう一回やってみたいです。(自分の探究成果を楽しそうにお話していることが伝わってきました。)

それぞれ、個人の成果報告という形式でしたが、その探究課題が他の生徒さんの探究と協働することで1 + 1 = 2ではない、もっと大きなかけ合わせになるような場になれば…という希望が持てる良い交流があったと思います。

【小岩井委員】

2 探究科の「主体的な学びへの姿勢」を学校教育だけでなく、社会教育、生涯学習の場へ継続していくために、社会教育委員としてできること

- ・ 「学力」についての考え方を変えていくことが必須であると考えている。「アクティブ・ラーニング」「主体的・対話的で深い学び」等々の言葉が一人歩きしているものの、地域の方の「学力観」が大きく変わっている様子はないように受けとめている(学校側も、今回の県ヶ丘高校のような公開や情報発信といった取り組みを継続し、保護者や地

域へ発信し変えていく努力が必要だと考えている。)

高校改革、大学改革、大学入試改革について、小中学校の教員も、ねらい・具体等について学ぶことが大切だと感じた。(県ヶ丘高校の探究科の様子について、小学校教員はほとんど知らないのが実情です。)

(コロナ禍では難しいけれど) 地域の中学生との発表交流等、より大勢に向けた発信の場づくりに協力できればと思います。

【熊谷委員】

- ・ 生徒が探究のテーマを決めるデータや資料作り、探究の共同研究、研究内容の精査等、地域の大人として、そして指導者ではなく共同研究者になればと思います。

【原議長】

- ・ 「信州学」という言葉を時々耳にします。今まで具体的な内容を考えることはありませんでしたが、ポスター集を読んで、「これはあの人に取材してみたら?」「あの人にアドバイスを受けてみたら?」「あの人がこの研究を知ったら喜ぶのでは?」等、思うことが沢山ありました。もしかすると、そうした若者と大人の両者からの働きかけが、「信州学」の礎になるのではないかと思ひ至りました。

社会教育委員としてできることがあるとしたら、「信州学なるもの」において、各世代のつなぎ役をはたすことかもしれないと思います。

【小林委員】

- ・ 自分がやりたいこと、学びたいことを選んで探究し、誰かに伝えていく、仲間と共に学ぶ。学ぶことって楽しい、生きがいになることを若い時からたくさん経験することが、大人になっても年をとっても学びを続けていく原体験、原動力になると思います。そんな子どもたちがどんどん社会に出て親になり、またその子どもに伝えていくというサイクルができるように、今の子どもたちの学びに、一緒に楽しんで寄り添っていくことができればいいと思います。

【小岩井委員】

3 発表会の運営（特に手法）について、課題だと感じた事をできるだけ客観的、具体的に ご記入ください。（改善等を子どもたちにも考えてもらいたいと思います。）

- ・ 公開会場をふやし、1教室に3ブース程度で実施していただけるとありがたい。（発表の音が聞き取りにくく、かつセッションがしにくい状況であった。生徒のよりよい学びを考えると、質疑応答のセッションの質を高めるためにも、ブースを減らすことは有効であろう。）

コロナ対応での分散化を図っており、現状では今回の開催方法でよかったと受けとめている。

【熊谷委員】

- ・ コロナの状況下仕方ないですが、時間をかけての探究です。もう少し研究内容までしっかりみれる時間が欲しかったことと、もっと多くの人に聞いてもらいたいです。早くこの状況が落ち着いてみんなが当たり前前に集まれて、隣の発表の声を気にせず発表できるようになると良いですね。

【原議長】

- ・ これまでの発表会に参加したことがないので比較はできませんが、今回は、三密をさけるために、運営上もご苦労が多かったと思います。

教室での発表を見学したのですが、ポスター前での口頭プレゼンテーションの時はそれを聴こうとする人が多数集まり（実際にはそれほどの数ではないのですが、狭いのでそう感じました）、それを避けたり先を急いで次のポスターを見ようとする人もあり…で、教室内が少々混雑しました。

時間の短縮に加えて、空間の拡張もできれば参加者にとってもメリットが大きいと感じました。ポスターセッションは自由に見て回る時間を先に設け、プレゼンテーションは、別の機会に生徒さんや中学生を対象にゆっくりじっくり…という方法もあるのではないかと思います。

また、きわめて具体的なことで一つ気になったことがあります。それは、円グラフを描く場合、時計で言えば12時の位置を起点とするのが通例だと思うのですが、そうではないものが数点あり、違和感があったことです。現在の主流なのか？はたまたツールの設定なのか？（色んな世代の）人に伝える際に伝わりやすいまとめ方についても探究の余地はあると感じました。

【小林委員】

- ・ ポスターが良くまとまっていたので、例えばネット上に画像をアップして事前に参加者に観てもらったり、プレゼンテーションの動画を閲覧できるようにするなどしておけば、質疑応答だけの接触にできるかもしれません。（質疑すらリアルタイムの会議ツールがあればネットでも可能か？）

運営のみなさんだけがコロナ対策で大変ではなく、参加者の私たちも上記のような事前に行えることをしっかりやっておくことが大切だと思いますので、その事前情報を提供いただければありがたいと思いました。

【小岩井委員】

松本県ヶ丘高等学校「課題探究発表会」(R3.1.30) 研修レポート

1 課題探究発表会に参加しての総合的な感想

- ・ 2年生322人全員が、自ら選んだ課題について探究し、それを皆に発表し、評価を得る機会が持てたこと、また、それをここまでご指導された先生方は大変だったと思う。

学校の取組みは、真の学校教育の在り方につながることで、とても大切に素晴らしい取組みだと感じた。このような探究活動が発信されると、他の小・中・高校の教育への大きな刺激になると思う。

小学校からこんな視点で課題を持って探究活動(教育)が展開し、中・高校へと積み上げられていくといいと感じた。

県ヶ丘高校から県内の高校へ発信し、他の高校でも取組みが広がることを望む。

【祖父江委員】

- ・ 3教室3名の発表を聞いたが、中途半端な傍聴になってしまった。私見だが、午後の代表者発表 だけでも傍聴できればありがたかった。

【梶原委員】

- ・ 2年生322人の研究発表に参加した。各会場の生徒たちの適度に緊張した姿のなか、和やかさが感じられた。日常の生活における素朴な興味や疑問から問題探究→解決につながり、取り組んだと思われる。発表を聞く姿もとても真面目だった。

第1回目の探究科81人の発表にも参加したかったが、いただいた資料(ポスター集)からも充実した課題探究の成果がうかがえる。この成果をぜひ、次の展望に深めていってほしい。

【春原委員】

2 探究科の「主体的な学びへの姿勢」を学校教育だけでなく、社会教育、生涯学習の場へ継続していくために、社会教育委員としてできること

- ・ 322人の研究は、教育委員会の各施設や市内の各地域づくりセンターで実践している事柄と何らかの形で関連があり、つながると思う。

高校生にも教育施設や地域づくりセンターがあることや各施設や各地域で行われている実践内容を知ってもらい、高校生の研究内容も知ってもらい、交流しあって研究成果が生かされ、今後の研究がさらに深められ、高められる方向につなげていく役割があ

るのではないかと感じた。このことについては、社会教育委員会議で協議してみたい。

【祖父江委員】

- ・ 地域環境の問題等に取り組まれた生徒には、できる限り地元と連携して、生涯学習として取り組み続けてほしい。そのためには、社会教育委員会議と学校とのパイプを敷設できる環境づくりをお手伝いできるようになればと感じた。

【梶原委員】

- ・ 課題を見つけ、その解決に向けて追求していく力を身に付けていくことは、社会人になる前のまさに学びの機会である。教育課程で時数の制限から、総合学習的な時間が確保できないと考えられるものの、このような「主体的な学び」は有益なことに結びつくと思う。

地元の企業や教育団体の協力応援が意欲を駆り立て、次の展開につながっていくように見える。社会教育委員として、今回の発表会の現地学習から広く考えてみたい。

【春原委員】

3 発表会の運営（特に手法）について、課題だと感じた事をできるだけ客観的、具体的に ご記入ください。（改善等を子どもたちにも考えてもらいたいと思います。）

- ・ 他校や外部の参加希望者がある場合は、前もって探究発表会のパンフレットを送付し、分科会や研究内容について予備知識をもって参加できるように配慮をお願いしたい。

もう少しテーマ発表にかける時間がほしい。「質問はありませんか」の返し方もひとつではあるが、探究発表者がこの探究を通じて皆さんに考えてもらいたいこと、意見を聞きたいことなどについて問いかけることも大切だと感じた。

【祖父江委員】

- ・ 事前に発表プログラムが入手可能であれば、傍聴者も興味を持って見学できると思う。

【梶原委員】

- ・ 生徒主体であり、学校（職員）も各会場担当として、うまく動いていたように見えた。緻密な計画のもとで進められており素晴らしい。各賞は生徒たちには研究の励みにもなると思う。

【春原委員】

～ おわりに ～

思い起こせば、新委員による社会教育委員会議が初めて開催されたのが、令和元年12月16日でした。ちょうど、新型コロナウイルス感染症が海の向こうのこととして報道され始めた頃です。そういった観点から本会議の活動を振り返ると、まさにコロナ禍という波に翻弄された2年間（継続中）だったとの思いがあります。

本来であれば、いくつかのテーマを掲げて討議や現地視察研修などを経て、1～2つのテーマに絞り込み、それについて更に研鑽を深めて「提言書」でまとめるべきところでしたが、上記のような事情で、「活動報告集」となりました。

ひとつの料理（提言書）を作るために、いろいろな食材の種まきをして芽が出るまではいったのですが、生育過程の途中で思わぬアクシデントに見舞われ、醸成させるための試行錯誤を繰り返しながら（ウェブ会議等）歩んだ2年間になりました。結果、食材をレシピに沿って調理して整った形での料理をご提供できなかったことは残念で申し訳なく思うところです。

しかしながら、芽吹いた各委員の文章（ほとんど原文）は、醸成を目指してどうにかしようという強い思いが込められた内容のものになったと自負しております。皆様にそんな委員の『思い』が伝われば幸いに存じます。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

令和3年9月

松本市社会教育委員会議 副議長 白木 好雄

松本市社会教育委員会議提言書 過去テーマ一覧

発行日	テーマ
平成21年9月24日	<ol style="list-style-type: none"> 1 伝統文化の継承について 2 家庭・学校・地域の連携について
平成23年9月16日	「リーダーの育成をどのように進めるか」
平成25年9月20日	<p>“子どもは地域の宝”</p> <p>～地域の子どもは地域で育てる～</p>
平成27年9月30日	<p>子どもの健やかな育ちへの大人のかかわり</p> <p>～人とのつながり、コミュニケーションのできるまちづくりをめざして～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域の子どもとして育てる 2 子どものネット環境を改善する 3 社会体育のあり方を再検討する 4 子どもの自己肯定感を高める
平成29年9月30日	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域との関わり 2 子どもの権利条例について 3 若者たちの連携
令和元年9月30日	<p>松本版コミュニティスクールへの提言</p> <p>～すべてに対してやさしくおもいやりに生きるひと大人へ～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ビジョンを共有することの大切さ 2 コーディネーターの重要性



まつもと市民
生きいき活動